

2月の植物

カジノキ (クワ科)

学名 : *Broussonetia papyrifera*(L.)Vent.

冬に落葉するカジノキは、2月のこの時期、林立する枝が目立つ。葉も花も無いのに今月の植物に選んだのは、カジノキと和紙作りに重要な、「かご切り」と「かご蒸し（かごもし）」の季節だから。(カジノキやコウゾ等、和紙の原料の植物はかごと呼ばれている)

佐賀市大和町名尾地区では、約 300 年前からカジノキを栽培してその皮で和紙を作っている。現在も「名尾手すき和紙(株)」では、伝統が受け継がれている。春に1株から何本も芽を出し、成長するカジノキは、夏には切れ込みのある大きな葉を広げ、1年で高さ2m前後、太さ3~10cmぐらいになり、冬には落葉する。休眠中の毎年この時期、根元から刈り取って長さを揃え(かご切り)、釜で蒸してから1本ずつ皮を剥いでいく(かご蒸し)。剥いだ皮は乾燥させて1年分の和紙の原料として保管する。

カジノキは、暖帯・亜熱帯の高木で、日本には古い時代に伝来して各地で栽培され、時に野生化している。種小名の *papyrifera* は「紙をもった」の意味。日本に自生している同属にはヒメコウゾ、ツルコウゾがある。現在、和紙の原料として全国で広く栽培され、使われているコウゾは、ヒメコウゾとカジノキの雑種 *Broussonetia Kajinoki* × *Broussonetia papyrifera* といわれている。コウゾには、葉柄が短く毛が少ないヒメコウゾに近いものから、葉柄が長く毛が多いカジノキに近いものまで、たくさんの品種がある。名尾で栽培しているカジノキも近隣の脊振町で栽培されているものとは少し性質が違うという話もあり、純粋なカジノキなのかどうかは遺伝子解析が待たれる。

今日、2月8日は今冬初めてのかご蒸しだった。蒸したカジノキは、ほのかに甘い香りがする。今年も良い紙ができますように…。

(文責 神代智子)



◎参考文献：

原色日本植物図鑑 木本編〔Ⅱ〕 保育社
原色牧野植物大図鑑 北隆館
検索入門 樹木① 保育社